

＜研究主題＞

すすんで考え、学び合い、思考を深める児童の育成
～国語科の話す・聞く活動を中心として～

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名

単元名「くみ立てを考えて書き、知らせよう」【書く】

教材名「こんなもの、見つけたよ」

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・「初め」「中」「終わり」を意識して、自分の思いを書くことができる。
- ・書いたものを読み合い、感想を伝え合うことができる。
- ・文の意味が明確になるように語句や文のつながりを考えて書くことができる。

(2) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む 能力	言語についての 知識・理解・技能
① 知らせる文章の書き方に興味をもって取り組んでいる。 ② 友達に知らせたいものや出来事を進んで見つけ、書きたいテーマを選んでいる。 ③ 知らせたいことを、興味をもって取材し、文章にまとめようとしている。	① 書いた文章を読み合い、いいなと思ったことや面白いなと思ったところを伝え合っている。	① 構成を意識し、書く事柄の順序を整理して、書いている。 ② 語句や文のつながりに気を付けて書いている。 ③ 自分が書いた文章を読み返し、より伝わる文章に書き直している。		① 主語と述語の関係に注意して文を書いている。 ② 句読点やかぎの使い方を理解して文章の中で使っている。

3 単元について

(1) 児童の実態

①アンケートによる実態

学級で、国語に関するアンケートを行った。

＜アンケート結果＞

(29人回答)

		はい	どちらか というと はい	どちらか というと いいえ	いいえ
1	国語の学習は、好きですか？	16	7	4	2
2	はんの友達に自分の意見や考えを話すことは好きですか？	13	10	0	6
3	みんなの前で自分の意見や考えを話すことは好きですか？	8	9	4	8
4	友達と話し合いながら学習することは好きですか？	18	8	1	2
5	聞き手にわかりやすいように、考えて発言していますか？	10	17	2	0
6	話している人を見て、うなずきながら聞いていますか？	9	10	8	2
7	話している人が何を伝えたいか、考えながら聞いていますか？	15	7	4	3

全体の8割の児童が、国語の学習に対して前向きに取り組んでいることが分かる。

また「2、はんの友達に自分の意見や考えを話すこと」や「4、友達と話し合いながら学習すること」は、好きと答えている児童は8～9割となっているため少人数の中で自分の意見を伝えたり、話し合ったりすることにも前向きである。しかし、「3、みんなの前で自分の意見や考えを話すこと」については6割弱の児童は「好き」と答えているが残りの4割は苦手として捉えている。朝の会に一言スピーチを行うことで友達の前で話すことに慣れさせていきたいと考えている。

本単元では知らせたいことを文章で書き、友達がその文章を読んで感想を伝える活動を設定している。今回初めて「初め」「中」「終わり」の構成を学習し、友達に認めてもらうことで「知らせたいことを文章で書いてよかった。また書きたい」という意欲につなげ、「また感想を交流したい」という動機になるようにしたい。

②日常の実態

「話すこと」

朝の会に日直の一言スピーチを実施している。今は二つの文を話すことを目標に取り組んでいる。今後は相手に伝わるように行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えたスピーチができるように指導していく。また国語のアンケート結果からも分かるように約4割の児童がみんなの前で発表することに苦手意識を持っているため、なかなか話し出せない児童や小さな声で話す児童がいる。朝の会でスピーチを行うことで人前で話すことに慣れさせ、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫できるようにしたい。

「聞くこと」

朝の会のスピーチでは、友達の方を見てスピーチを楽しみながら聞いている様子が見られる。また、友達のスピーチについて質問をしようと挙手をする児童が多いことから興味をもって聞いていると判断できる。アンケートのうなずきながら聞くことができていると感じている児童が約3割いるため、うなずきながら聞く姿とうなずかないで聞く姿を見てどちらの方が話したいと感じる聞き方なのかを授業で行っていこうと考えている。授業中では、担任の話をしっかり聞く姿が見られるため、自分にとって大事なことや知りたいことを落とさずに聞こうとする力は育ってきていると考える。

(2) 単元設定の理由

本単元は、書く能力の中でも、構成・交流に指導の焦点を当てている。読む人に分かりやすく伝えるために、文や文章をどの順番でつなげて書くとよいのか、文章の組み立てを考える力を育てたい。特に、「初め」「中」「終わり」という文章の基本的な構成に気を付けて書く最初の単元として丁寧に扱いたい。また、「伝えたい」と思って書く文章だからこそ、交流の意欲も高まると推測される。友達の着眼点や表現、構成等に関わって感想を積極的に伝え合わせたい。

(3) 教材文の分析

「話すこと・聞くこと」に関して身に付けることの一つに「身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと」がある。児童は日々の生活の中から発見を促していくつかの題材から一番話したいことを考えさせたい。これらの活動は、児童ならではの感性を引き出すことができると考える。そして自分の発見のうち、一番伝えたいものは何なのかを考え、それを分かりやすく伝えたい、自分の発見をみんなに読んでもらいたいという目的意識が、「初め」「中」「終わり」の構成を主体的に学ぼうとする意欲、感想を交流したいという動機につながると考える。本単元での「書けた」という成就感が、今後の「書く能力」の伸長に大きく影響すると思われるため、「初め」「中」「終わり」の基本的構成を、どの児童にもしっかり身に付けさせたい。

4 目指す児童像に迫るための手立て

【低学年分科会の目指す児童像】

伝えたいことを順序に気をつけて話したり、話の内容をとらえて聞き、感想をもったりして伝え合う子

____(下線部)は「話す・聞く」の手立て

(1) 授業展開・形態の工夫

- ・単元のためてを確認し教科書にある作例のよいところを見つけ、学習活動の見通しをもたせる。
- ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。
- ・選んだ話題を「初め」「中」「終わり」の構成で文章に書く。
- ・「初め」「中」「終わり」の構成を分かりやすくするため、色分けした短冊を使用する。
- ・友達が書いた文章を読んで感想を伝え合う。伝え合うときは感想を伝えやすくするためにペアで行う。

(2) 学習活動の工夫

- ・友達に知らせたいものや出来事を見付けられない児童のために、児童が興味をもって書けるような題材を提示する。
- ・「初め」「中」「終わり」の構成を分かりやすくするため、色分けした短冊を使用する。
- ・友達が伝えなかったことを確認し、その後感想を伝える。感想は児童用タブレットに書いてから伝えることでメッセージとして残るようにする。

(3) ICT機器の活用

- ・書いた文章を児童用タブレットで写真に撮り、多数の友達にコメントを書いてもらえるように複製しておく。
- ・タッチペンを使用して文章を読んだ感想を児童用タブレットに書く。

5 単元の指導計画（全8時間）

次	時間	各時間の目標	主な学習活動	●指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法）
一	1	・教科書の作例をもとによいところを見付け、学習の見通しをもつことができる。	・「友達に知らせたいことを知らせる文章を、組み立てを考えて書こう」という学習課題を設定し学習の見通しをもつ。	●本文を掲載したワークシートに傍線を引いたり、教師とともにポイントを書き込んだりしながら、作例のよいところを整理させる。 ◇知らせる文章の書き方に興味をもって取り組んでいる。【関①】（発表・観察）
	2	・友達に知らせたいものや出来事を見付け、周りの人に尋ねたり、調べたりしながらメモを詳しくすることができる。	・友達に知らせたいものや、出来事を見つけ、「はじめのメモ」を作る。 ・「はじめのメモ」をもとに「くわしくしたメモ」を作る。	●教科書p66には「はじめメモ」に書いている項目に関連して自分の知らなかった情報を書き足されていることに気付かせ、自分の「はじめのメモ」のどこを詳しくすればよいのかを考えさせる。 ◇友達に知らせたいものや出来事を進んで見つけ、書きたいテーマを選んでいく。 【関②】（観察） ◇知らせたいことを、興味をもって取材し、文章にまとめようとしている。【関③】（ノート・観察）
	3			
二	4	・「初め」「中」「終わり」の構成に気を付けながら、友達に伝えたいことを書くことができる。	・教科書p67の作例を参考に「初め」「中」「終わり」の組み立てのよさを確認する。 ・「くわしくしたメモ」に書いた内容を、「初め」「中」「終わり」のどのまとまりに書けばよいかについて見通しをもち、組み立てを考えて書く。	●「初め」には、「何を知らせたいか」、終わりには「まとめの言葉」、「中」の内容や順序に気を付けさせる。「中」は三文程度の文章で書く。 ◇構成を意識し、書く事柄の順序を整理して、書いている。【書①】（色分けの短冊） ◇主語と述語の関係に注意して文を書いている。【言①】
	5			
	6	・書いた文章を読み返し、句読点やかぎの使い方気を付けて書き直すことができる。	・色分け短冊を基に書いた文章を読み直し、間違いなどを正してワークシートに書き写す。 ・書いた文章を児童用タブレットで写真を撮り、複製しておく。	●読点の打つ位置や「」（かぎ）の使い方の他、誤字脱字、文の順序等にも注意することを伝える。 ◇句読点やかぎの使い方を理解して文章の中で使っている。【言②】（ワークシ

	7 本時	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み合い、いいなと思ったことや面白いなと思ったところを伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 感想は児童用タブレットに書き込む。 	<p>ト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇語句や文のつながりに気を付けて書いている。【書②】 ●感想を児童用タブレットに書いてから伝え合うことを伝える。 ◇書いた文章を読み合い、いいなと思ったことや面白いなと思ったところを伝え合っている。【話・聞①】(観察・児童用タブレット)
三	8	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が書いた文章を参考に、自分ができていたこと、できなかったことを振り返る。 より伝わる文章になるように書き直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前時の友達からもらった感想をタブレットを見返しながらか自分ができていたこと、できなかったことを確認する。 ◇自分が書いた文章を読み返し、より伝わる文章に書き直している。【書③】(ワークシート)

6 本時の指導（7／8）

(1) ねらい

書いた文章を読み合い、いいなと思ったことや面白いなと思ったところを伝え合うことができる。

(2) 展開

過程	主な学習活動	●指導上の留意点	◇評価内容と方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を確かめる。 ・読み合うときの順番や感想を伝え合うときのポイントを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ポイント</div> <ul style="list-style-type: none"> ・いいなと思ったところを伝える。 ・「私も〇〇をしてみたいと思いました。」 ・「〇〇がたのしそうだなと思いました。」 	<ul style="list-style-type: none"> ●友達の文章をしっかり読み、内容を確認することを伝える。 ●感想はいいなと思ったところや面白いなと思ったところを書くことを伝える。 	
展開	ともだちの文しょうのよいところを見つけよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童用タブレットを交換して読み合う。 ・友達に感想を伝える。 (ほめほめタイム) 「詳しく書いていいね。」 「〇〇だということを初めて知ったよ。」 「私も見てみようと思ったよ。」 ・児童用タブレットによかったところに線を引き、感想を書いて渡す。 ・友達の感想を聞いて感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●感想を伝え合ってからタブレットに書き込むことを確認する。書く時間は先生が指示を出すことを伝える。 ●感想が見つけれない児童には感想を伝えるポイントが書いてあるカードを提示する。 ●友達からタブレットを受け取ったら次の人が書き込めるように新しい画面にしておくことを伝える。 	◇書いた文章を読み合い、いいなと思ったところや、面白いなと思ったところを伝え合っている。【話・聞①】 (観察・児童用タブレット)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と交流して感じたことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●友達の文章を読んだときの感想や友達の感想を聞いて感じたことを書かせる。 	

こんなもの、見つけたよ

ともだちの文しようのよいところを
見つけよう。

読みあうときのじゅんばん

①どんな文しようを書いたのか、おたがいに
しっかり読む。

②ともだちに 文しようの よいところ
つたえる。

「わたしも〇〇をしてみたいなとおもいま
した。」

「〇〇がたのしそうだなとおもいました。」

③ともだちにつたえたことをタブレットに
書く。

ふりかえりカード